

『藤農便り』 第13号

宮本茶園 宮本 透（自然文化誌研究会）

極寒での外作業がたたったのか、3月上旬五日間寝込みました。賃金労働者を続けていれば3月末で定年退職、60歳を過ぎ確実に老人になった事を布団の中で実感しました。今年は寒暖の差が激しい茶農家泣かせの春、3月21日藤野では雪が降りました。その後暖かい日が続き、4月7日から3日間遅霜がありました。ちょうど茶の新芽が出始めた頃で、朝真っ白になった家の屋根を見てオロオロしながら畑にすっ飛んで行きました。4月中旬からはたっぷり雨が降った後は高温になり、一気に芽が伸び収穫まで気が抜けませんでした。収穫予定日の天候が気になり、起床するとまずYahoo!天気を見る習慣が身に付きました。

・ちーむゴエモンの活動その2

1月に千木良のヤギ苑で仕込んだ醤油は、日連の尾崎さん宅で管理しています。樽の中でゆっくり熟成していく様子は、まさに微生物の世界を描いた漫画もやしもんの世界です。もろみの色は月ごとに黒味を帯び、4月にはうっすら白く産膜酵母が表面を覆っていました。産膜酵母は醤油の風味を劣化させるので、発生を防ぐためにもろみをかき混ぜる作業が大事だそうです。この先どのように熟成していくのか、月末の天地返しを楽しみに観察してみます。



4月27日、高橋さん宅でイネの播種作業

をしました。農業高校の授業では農協から苗を購入していたので、恥ずかしながら播種作業は初めての体験です。育苗箱に培土を均等に詰めて古代米はばら蒔き、ウルチ米・モチ米は機械植えをするので播種機を使って筋蒔きにしました。午前中作業して29箱、前日高橋さんが一人で播種した36箱と合わせて65箱が育苗ハウスに並びました。これからは田植え・草取り・稲刈り・大豆・麦栽培等、ちーむゴエモンでの農作業を紹介していきます。)



・野草の天ぷらとお茶摘みの会

4月29日はINCH恒例の野草の天ぷらとお茶摘みの会、天気に恵まれ学大環境教育研究センターには64家族、スタッフを含めると90名以上の方が集まりました。1時間みんなで摘んだ茶葉は2.6kg、セイロで蒸して焙炉でひたすら揉んでいきます。茶摘みの後は岩谷樹木医の野草採取ですが今年は手揉み作業に専念する参加者も多く、佐野川の茶栽培の話をしながらか3時間600gの新茶を仕上げました。



藤野では和田の里体験センターで、地元有志団体「和田の里みちくさの会」が茶摘み体験を開催しています。国分寺から藤野まで中央線快速で40分です。学大のデイキャンプで茶摘みに興味を持った方は、佐野川の「日本の里100選」になっている急斜面の茶畑に入って本格的な体験を楽しんでください。

・手入れされなくなった茶園再生の取り組み

前号で木村普及員の指導による手入れされなくなった茶園再生の整枝講習会の事を報告しました。木村さんは「景観維持だけでなく、茶園は収穫・出荷できるよう管理すべきだ」といわれますが、講習会に参加した梅本さんと相談し当面2人で協力しながら農村景観維持のために手入れする事にしました。4月20日、作業をして2回目の整枝を行いました。



3月農業技術センターの研修会で経営診断がありました。税務署に提出した確定申告書では、昨年農業所得以上に経費がかかり数十万円の赤字です。生活のため昨年3月から児童クラブのアルバイトをしています。悲しい事に1日3~4時間週3日の賃金が農業所得の1.5倍になるのです。診断結果は厳しく「昨年同様の赤字なら農家をやめたほうがよい」でした。茶園が管理されなくなった理由は私の経営診断結果と同義だと思います。日本農業の抱える問題はこれほど単純ではありませんが、とにかく茶園再生に微力ながら取り組みます。

・茶収穫

4月17日、農協藤野茶業部総会・部会が開催されました。部会では今年が一番茶摘採

予定が話し合われ、26日茶園巡回実施、5月1日各部員畑の摘採日調整会議が行われました。今年の春は気温が高く、昨年比で10日ほど早く新芽が成長しています。



会議では部員が協力し合い、効率よく収穫作業を行う事が確認されました。連休後半の5日から摘採が始まりましたが7日から10日までの4日間雨が降り続き、会議で決めた日程は大きく狂ってしまいました。

私の畑は10日に足柄茶出荷用販売茶、14日と20日に自家用茶を収穫する予定でした。10日は天気予報がはずれて雷雨、部員は早朝から携帯で連絡を取り合い摘採日程の調整をしました。木村普及員の助言もあり私の畑は11日午後から13日午前の摘採作業になりました。部員の大河原さんと中村さんが摘採機を持って駆けつけてくださり、ヘルパーとアルバイトの方たちの働きで5反すべての収穫を終える事ができました。就農2年目の収量は1000kg、木村普及員と小池部長はじめ茶業部先輩農家皆さんの温かい指導の賜物だと深く感謝しています。

・雑穀栽培始動

2016年12月に新規就農のため相模原市農業委員会に提出した営農計画書には、茶と雑穀栽培に取り組むと記載してあります。残念ながら昨年自分の畑では茶栽培だけで、雑穀を育てた藤野駅前畑と内郷畑は他人の畑でした。2年間雑穀栽培講習会を担ったので自分の畑で雑穀栽培したいと思っていたところ、昨年秋に藤野茶業部の田村さんから「空いている畑があるから、雑穀栽培する

なら貸してあげるよ」とお話をいただきました。上岩の茶畑近くにある1反の畑です。5反の茶畑とお手伝いした3反の畑を管理するので手一杯でしたので、「はい、お借りします」と即答できませんでした。

2月相模原市農政課主催の新規就農者情報交換会があり、出席しました。会場に農業委員の藤村先生がいらしてご挨拶すると「君と雑穀街道の事、話したかったのだ」といわれ、農政局や農協の幹部の方々を紹介してくださいました。雑穀街道の事は即認知され「雑穀街道のFAO世界農業遺産認定で一番大切なのは、地元の農家がどれだけ雑穀を栽培しているかですよ」との助言をいただきました。「私は新規就農2年目ですが、佐野川で雑穀栽培に取り組んでいます」とこたえ、田村さんの雑穀畑を借りる気持ちを固めました。

藤野茶業部先輩の田村さんは大豆や麦作りが上手で昔から雑穀を栽培し、今でもキビを収穫しているそうです。まさに雑穀街道の地元農家で、一緒に雑穀栽培できる事心強い限りです。先日は草が生え始めた畑をていねいに耕してくださり、恐縮しています。茶収穫が終わったら、植え付け開始です！



・雑穀街道情報

4月9日、上野原市役所でINCH・雑穀街道普及会主催「雑穀街道とFAO世界農業遺産セミナー」が開かれました。平日にもかかわらず丹波山村長はじめ32名の参加者があり、雑穀街道各地区の活動報告と情報交換が行われました。小菅地区の雑穀見本園は5月12日播種、藤野地区の自給農耕ゼミ雑穀栽培講習会は6月3日開催に向けて準備しています。西原地区の雑穀トラストは4月20日付毎日新聞に紹介され、5月5日現在で目標金額の105%の525,000円集まったそうです。5月12日キビの種まき&キビまんじゅう作り体験が行われました。

藤野地区 自給農耕ゼミ雑穀栽培講習
問い合わせ：宮本透 090-2205-8476 まで



学芸大学にて茶つみと製茶作業。来年は1週早くやるかも。



こちらは小菅の畑ウド。